

明石市SDGs未来都市計画（案）に対する市民意見募集結果について

1. 意見募集の概要

(1)募集内容

明石市SDGs未来都市計画（案）

(2)募集期間

令和2年7月31日から令和2年8月21日（22日間）

(3)応募方法

電子メール、FAX、郵送

2. 意見募集の結果

合計10名の方から28件のご意見をいただきました。

～17歳	18・19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	不明	合計
1名	—	—	2名	1名	1名	1名	3名	1名	10名

3. ご意見等の内訳

計画書（案）全体について	6件
計画書（案）の掲載内容について	17件
事業の提案等	5件

4. ご意見等の概要及び市の考え方について

(1) 計画書(案)全体について

No.	ご意見等の概要	市の考え方
1	<p>本計画案には、「コロナ」に関する記述が全く見当たりません。「コロナ」が本計画案の遂行に及ぼす影響の概要と終息させるための方策並びにそのスケジュールに関する考え方だけでも記述していただくように要望します。</p>	<p>現在、本市では、新型コロナウイルス感染症対策と市民生活支援に最優先で取り組んでいるところです。今後、これらの取組状況や、感染症による社会経済情勢の変化等を十分に見極めながら、本計画の見直し、改訂を検討していく考えです。また、今後策定する「(仮称)あかしSDGs推進計画(第6次明石市長期総合計画)」等については、感染症の観点も取り入れていく予定です。</p>
2	<p>今回のパブリックコメントで提出された意見によって本計画案は、修正されるのでしょうか。</p>	<p>本計画(案)へのご意見の反映については、国が示している「相当程度の齟齬」が生じない範囲で反映していく考えです。</p>
3	<p>計画(案)について、“相当程度の齟齬”を生じさせることはできない状況下で、市民からの“意見募集”で何を期待されているのかを説明してほしい。</p>	<p>今後策定予定の「(仮称)あかしSDGs推進計画(第6次長期総合計画)」等については、公募市民や経済・社会・環境面の各分野の代表者で構成する審議会を設置し、検討を進めていくとともに、パブリックコメントや当事者団体等との意見交換を行うなど、市民参画を十分に踏まえて、策定していく考えです。</p>
4	<p>2023年3月策定予定の「あかしSDGs推進計画(第6次長期総合計画)」や「(仮称)あかしSDGs前期戦略計画」における、重点的施策とSDGsの各ゴールとの関係の明示や、各ターゲットを踏まえた数値目標を設定する過程においては、SDGsの基本とも言える市民参画を尊重し、“みんなで”実施されるよう配慮されることを願望します。</p>	
5	<p>SDGsでは、目標17がパートナーシップです。8月1日付広報あかしで、未来都市に選定されたとのこと。応募までの過程(検討や、討議など)は、市民にどう広報されたのでしょうか。 「市民参画」は、協働のまちづくりは、その前提となる情報の共有は、どうなっているのでしょうか。 未来都市は、市民の視点で語られ、決めるべきです。</p>	<p>本市では、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」「持続可能」「パートナーシップ」を踏まえ、今後のまちづくりとして、SDGs未来安心都市を掲げて取組を進めているところです。 今後さらにSDGsを推進するための取組の一環として、国が選定する未来都市に応募し、このたび、本市のこれまでの取組等が評価され、選定されたところです。 SDGsを推進するにあたっては、行政のみならず、市民や企業とのパートナーシップは必要不可欠であることから、広報紙や出前講座等を通じて、SDGsに関する情報提供、啓発・周知を行い、市民参画、協働のもと進めていく考えです。</p>

No.	ご意見等の概要	市の考え方
6	2020～2022年度の計画であるにも関わらず、K P I が暫定値で、2022年3月に再設定されるというのは、極めておかしなことです。本計画案で設定できなかった理由は、何なのでしょう。	2022年3月末までに策定する「（仮称）あかしSDG s 推進計画」等で設定されるK P I との整合性をとる必要があるため、暫定値としています。

(2) 計画書(案)の掲載内容について

No.	ご意見等の概要	市の考え方
1	<p>P 6 : 2030年のあるべき姿</p> <p>「SDG s 未来安心都市・明石」に共感します。市民に寄り添う姿勢が随所に感じられる素敵な街が、より一層発展できるような取り組みに期待しています。</p>	<p>「SDG s 未来安心都市・明石～いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで～」のまちづくりに向けて、今後各取組を推進していく考えです。</p>
2	<p>P 7 : 3つのまちの方向性 P 9～11</p> <p>・・・緑の保全など、自然と人が共生するまち・・・。</p> <p>目標 13 (気候変動に具体的な対策を)、目標 14 (海の豊かさを守ろう)、が重点的な取組となっています。まちの方向性からすると、目標 15 (陸の豊かさを守ろう) も対象にすべきです。自然を限定すべきでない。明石でも、漁・農の連携 (池干し、ため池清掃への参加)、外来生物の侵入防止、ため池、緑地での絶滅危惧種、コウノトリの保護など盛んです。当然ながら、農業の持続的発展も盛り込むべきです。</p>	<p>本計画(案)の自治体SDG sの推進に資する取組においては、「独自性のあるシンボリックな取組を記載することとし、総花的な記載とならないよう留意すること。」が提案において求められており、新規・拡充事業を中心に掲載しました。</p> <p>については、2022年度に第41回豊かな海づくり大会が予定されていたことから、海に関する事業を掲載しています。</p> <p>ご意見のとおり、水循環など海と陸での環境保全への取組については、連携が不可欠であると認識しています。本市においても、目標 15 (陸の豊かさを守ろう) への取組も実施しており、今後も取組が必要であると認識しています。</p>
3	<p>P 9 : (環境) 2030年の温室効果ガス排出量</p> <p>「気候非常事態宣言」の内容に則した施策を策定し、実行に移していたきたいと切に願っています。</p> <p>「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ」達成に向けて、2022年3月策定予定の計画では、2030年の温室効果ガス排出量を2013年比で約50%削減に設定していただくことを要望します。</p>	<p>「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ」を計画に盛り込むように、記載の見直しをしました。</p> <p>温室効果ガスについては、個別計画である「ストップ温暖化！低炭素社会のまちあかしプラン(明石市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改訂版)」に定めており、同計画に準じてKPIを設定しています。今後、同計画を改定する際に、温室効果ガス排出量の削減目標の見直しについて、検討を行います。</p>
4	<p>ターゲット番号13, 1「全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化する。」と、13, 3「気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。」を設定し、KPI(暫定)として温室効果ガス排出量が記されていますが、このKPIは選定したターゲットの一部であり、深く考えたKPIでは無いと推測される。また、値自体もかなり前の市の作成資料のままです。</p>	<p>KPIについては、「地方創生SDG sローカル指標リスト2019年8月版(第一版):自治体SDG s推進評価・調査検討会」や本市の各分野の個別計画を参考にしながら、主要なものを設定しています。</p>

No.	ご意見等の概要	市の考え方
5	「あかしSDGs推進計画(第6次長期総合計画)」や「(仮称)あかしSDGs前期戦略計画」では、市の気候異常事態宣言の2050年までにCO2排出量と吸収量の均衡をとる「実質ゼロを目指す」ことをベースとしてバックキャスト手法等を用いて2030年の目標値としてのKPIを定めるべきではないでしょうか。	
6	KPI(Key Performance Index)を数値目標と捉えておられるようですが、SDGs活動を成功させるためにはその定義を明確にすることが必須と考えます。	KPI(Key Performance Indicator:重要業績評価指標)については、「目標を達成するための取組の進捗状況を定量的に測定するための指標」として認識しており、より適切なものとなるように検討します。
7	<p>P9:(環境)</p> <p>P10:①豊かで美しい海づくり</p> <p>プラスチックごみの問題について、現在行われている市民団体と連携した活動の枠を広げる工夫が必要です。</p>	<p>今後より一層工夫しながら、市民団体をはじめ、地域において活動する団体と連携・協力しながら取組を進めていきたいと考えています。</p> <p>また、SDGsに取り組む団体等の裾野を拡大するため、SDGsの登録・認証制度について、検討を進めているところです。</p>
8	<p>P10:①豊かで美しい海づくり</p> <p>○海への栄養塩類の供給拡大</p> <p>・(省略)</p> <p>の記載の後に、</p> <p>「○魚類の生息・産卵場所確保のために</p> <p>・自然砂浜海岸の保全と、(道路・水路・個人等)において地面に雨水を浸み込ませる方策に取り組む。」</p> <p>を入れるというのはどうでしょうか。</p>	<p>魚類の生息・産卵場所確保については、海域の状況やバランスに留意しながら取り組んでいく必要があります、これまで鋼製魚礁の沈設などを周辺自治体や漁業者と連携しながら行ってきました。</p> <p>また、漁業者などの生産者自身が行う持続可能な水産資源保全の取組(海底耕耘など)への支援を進めており、関係者と連携した継続的な取組が環境の改善につながると考えています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の環境面での取組の参考といたします。</p>
9	<p>P11:地域循環共生圏構築に関する検討</p> <p>もっと具体的で分かり易い表現に修正していただくように要望します。</p> <p>2022年までに「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ」を目指して実行すること、例えば、排出量を少なくするだけでなく、現在はゼロに近いと教えていただいた「陸域と海域の吸収量」を如何に増加させるのかについて考え方だけでも記述していただくことを要望します。</p>	<p>地域循環共生圏についての説明を計画に追記しました。</p> <p>地域循環共生圏とは、各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指すという環境省が提唱している構想です。</p> <p>今後、いただいたご意見については、「地域循環共生圏構築に関する検討」の参考といたします。</p>
10	<p>P24:行政体内部の執行体制</p> <p>「感染対策局」は、SDGsに関して、どんなことを推進されるのでしょうか？</p>	<p>SDGsへの取組にあたっては、全体的に取り組む必要がありますので、行政体内部の機関で、市民生活に関わる主なものを掲載しています。</p> <p>感染対策局では、新型コロナウイルス感染症対策のみならず、自殺対策</p>

No.	ご意見等の概要	市の考え方
		やひきこもりに関する相談など誰一人取り残さない社会に向けた取組も実施しています。
11	行政機関はどこも縦割りです。SDG s 庁内推進会議で連携をとるのではなく、市長直轄でSDG s 推進室をもってくる方があらゆるものが素早く縦横無尽に取り組み、各部署での IT 化、市全体のシステム改善にもなり、目標に向かっていけるのではないかと思います。	SDG s への取組は、複数の部署が連携し、分野横断的に推進する必要があります。 SDG s 庁内推進会議では、全局長、部長等が参加し、市の全体的な取組について、総合調整を図ります。 また、Society5.0 に向けた取組において、IoT や AI を含めた革新技術の活用は重要であると認識しており、いただいたご意見につきましては、今後の参考といたします。
12	<p>P 3 4 : (取組概要) (統合的取組における全体最適化の概要及びその過程による工夫)</p> <p>紙おむつ宅配ノウハウと、見守り・異変察知等のスキルを兼備する事業者・人材は、かなり限定的と考えられる。そこで、統合的な日程管理が行われる前提で、それぞれの従事者を分離し、宅配部分は効率性最重視で、宅配ノウハウを持つ事業主体に任せ、見守り等部分には、地域の幅広い人材層の中から、経験やコミュニケーションスキルのある人に従事していただくこととしてはどうか。</p>	<p>0 歳児を持つ家庭への配達員には、子育て経験があることを前提に、保育士等子育てに関する資格があることや、学校・専門機関等において保育等の知識を習得した人を優先的に雇用することを委託事業者に提示しています。</p> <p>また、配達員には、市が実施する研修に参加し、0 歳児の家庭の変化に早期に気づき、行政に繋げるタイミングを逃さないスキルを身につけてもらいます。</p> <p>在宅介護世帯に紙おむつを宅配する事業では、介護事業者に委託しており、日頃から相談業務を行っている介護に関する知識を持つ職員が配達しています。紙おむつ等の受け渡しを通じて、対象世帯への声掛けや生活支援につながる情報提供等を行い、安否確認や見守りを実施しています。</p>
13	既存の「安否確認事業（保健飲料の配布）」には、経験とコミュニケーションスキルを兼ね備えた従事者の方もおられる。在宅介護世帯への訪問については、「安否確認事業（保健飲料の配布）」と組み合わせた展開も考えてはどうか。	本市では、各種見守り支援事業を実施しています。ひとり暮らし高齢者を対象とした「安否確認事業（保健飲料の配布）」、在宅で介護されている方を対象とした紙おむつ等の「介護用品支給事業」、また、高齢者の節目の年にお祝い金を民生児童委員が手渡しすることにより見守り支援につなげる「敬老見守り訪問事業」、さらに、配食業者など高齢者と接する機会の多い事業所と協定を結び、異変があれば市へ連絡いただく

No.	ご意見等の概要	市の考え方
14	在宅介護世帯で異変等を察知した場合の「市への連絡・必要な支援につなぐ」過程では、公共の立場（市役所）で、状況をコントロールし直す役割をしてほしい。公共の立場で世帯に入って、状況・課題を整理し、その上で、居宅介護支援を含む民間事業者の介護サービスに橋渡しをしてほしい。	「高齢者見守り協定締結事業」などを実施しており、各事業を組み合わせることで総合的に実施することで、高齢者を見守っていただく体制づくりを推進しています。 今後も、重層的な取組により、高齢者の見守りに取り組んでいきます。実施業者が、対象世帯の異変を認めるときは、直ちに市へ連絡し、市は支援や関わりの状況の確認、実態調査などを踏まえた上で、地域総合支援センター等の各関係機関と連携し、早期に必要な支援につなげる体制を構築しています。
15	<p>P 3 5, 3 6 : (3) - 2 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)</p> <p>高齢者とひとくくりにはできません。紙おむつ事業自体はいいのですが、元気な高齢者をどう活気づけ、おもしろい社会活動につなげるためにどうすればいいか、案にはこの視点が欠けています。</p>	<p>元気な高齢者を社会活動につなげる取組は、高齢化が加速する中、重要な課題であると認識しています。元気高齢者の活動支援として、高年クラブやシニア活動団体の活動助成金を拡充し、自主的な取組を促進しています。(計画書(案) 15 ページ)</p> <p>また、現在、高齢者に関する個別計画である「高齢者いきいき福祉計画及び第8期介護保険事業計画計画(2021~2023年度)」の策定を進めており、高齢者が活躍できる場の充実についても検討していきます。</p>
16	災害時にこそ、SDGsの目標5のジェンダー平等が、問われます。通常の生活の中で生かされてないと災害時に発揮されません。明石がなぜ、子どもに重点をおくか、障がい者に重きをおくか、それは弱いもの、守られるべきもの、尊厳ある存在が、あまりに今までの社会で軽んじられてきたからではないでしょうか。災害があったときに一番声を上げにくい存在です。スフィア基準を明石で実施できるよう、SDGs 17の視点で地域、企業、みんなで取り組んでください。	災害発生時にもSDGsの考え方を活かした支援ができるよう、避難所における生活環境について、スフィア基準(人道憲章と人道対応に関する最低基準)を参考にしながら、段ボールベッドや簡易間仕切等の備蓄を進めるとともに、平時から地域の皆様や関係機関との連携強化に努めていきたいと考えています。
17	<p>P 3 8 : (4) 多様なステークホルダーとの連携 表中の地域総合支援センターの運営に関する記載部分</p> <p>地域総合支援センターの運営に関する記載のみ、表の他の部分と異なり、官民協働の官の役割が記載されています。 また、官の業務の受託団体が、固定していると理解される記載です。 理由あってのことだと思いますので、機会があれば理由を発信してほしいと希望します。</p>	<p>本項目では、特に注力する先導的取組において連携する主な団体・組織名と位置付け・役割を掲載しています。</p> <p>については、特に注力する先導的取組において、計画策定時に連携している社会福祉協議会の位置付け・役割を記載しています。</p>

(3) 事業の提案等

No.	ご意見等の概要	市の考え方
1	<p>地域では、災害時に各住人がどこへ避難するべきか、どこにどれだけの災害備蓄品が確保されているのかをリアルタイムに把握する手段がありません。</p> <p>また、高齢者が多いことから連絡手段は電話連絡が多く、フレキシブルな対応が難しい状況です。</p> <p>そこで、以下のような仕組みを構築することでSDGs目標11（ターゲット：11. b）の達成に繋がるのではと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QRコードやセンシングモジュール等を利用して災害備蓄品のリアルタイムな状態変化（在り高）を把握する。 <p>⇒「N個減った」「残りN個」等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LINEや音声認識アシスタントを活用して複雑な操作をせずとも情報が通知される仕組みを設ける。 <p>⇒「〇〇〇公民館に毛布がN個あります」等</p>	<p>ご意見にありますとおり、避難所における避難者と食料、トイレなどの物資とのバランスを把握することは、重要な課題であると認識しています。</p> <p>今年度から、避難所や災害現場と本部との情報共有を目的として、スマートフォンを20台導入し、試験的に運用しています。</p> <p>LINEや使い慣れたアプリの活用により、迅速な情報共有を可能とすることは、災害時に必要でありますので、今後も検討していきます。</p>
2	<p>いつまでも安心して暮らせる街を構築するにあたって、公共インフラの維持管理も重要です。</p>	<p>公共施設（インフラ）については、将来の人口構成や変化する市民ニーズと市の財政状況を考慮し、施設の目的や機能をより時代に合ったものに見直していきます。</p>
3	<p>プラスチックを減らすだけでなく、再利用していくことが大切です。</p> <p>プラスチックゴミ専用のゴミ袋を製作し、分別する取り組みを行なっていただきたいです。</p>	<p>国では可燃ゴミや不燃ゴミとして処分されているプラスチック製品のリサイクル推進を目的として、家庭から排出されるプラスチックゴミを回収する新たな分別区分「プラスチック資源」を設ける方針を明らかにしています。</p>
4	<p>このコロナでテイクアウトが増えましたがプラスチックゴミが増えているようです。</p> <p>プラスチックゴミ軽減に向けて、プラスチックに代わるより良い素材の開発にかかわる企業との連携を行政が率先してつくってほしい。</p>	<p>本市環境行政におきましても「みんなでつくる循環型のまち・あかしプラン（明石市一般廃棄物処理基本計画）」の基本理念である「環境への負荷が小さく持続可能な循環型のまち・あかし」の実現を図るため、環境施策の重点的な取り組みの一つとして、プラスチックゴミの発生抑制や減量化並びに適正処理を推進していきます。</p>
5	<p>明石在住の中国人です。</p> <p>子育て支援、就労支援などを含む生活全般について、外国人向けの総合窓口が必要です。</p>	<p>本市には、2019年12月末現在で3,698人の在留外国人（法務省「在留外国人統計2109」）がおられます。</p> <p>外国人向けの多言語対応につきましては、「いつまでもすべての人にやさしいまち」に向けて、重要なことであると認識しています。</p>

No.	ご意見等の概要	市の考え方
	<p>新型コロナウイルス感染症が流行している期間は、厚生労働省が多言語で情報提供していますが、明石市内の具体的な情報を得るのが難しいです。</p> <p>外国人向けに、Google 翻訳ではない正確な翻訳の外国語で、広報するようお願いしたい。</p>	<p>外国籍の方への情報提供については、現在のところ各部署により、翻訳されたパンフレットなどを提供しています。</p> <p>いただいたご意見は今後の参考といたします。</p>